

クイズに答えて素敵な商品をGET

Q 今年の宙“ソラ”を賑わせている宇宙飛行士の油井亀美也さん。『中年の星』になるという名言もあり、まだまだ頑張ろうと励まされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。また小さいときから宇宙に興味がありその夢を実現した方でもあり、大変感銘を受けました。今回はそんな時の人、油井さんついでの問題です。油井さんの前の職業は何でしょうか？



① レタス農家 ② 自衛官 ③ サラリーマン

応募方法 プレゼントの応募方法…同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。

- ⑦ エドワード・ムニー・Jr.著「石を積むひと」 5名
- ⑧ 宇宙飛行士キーライト 10名
- ⑨ 宇宙食セット(中身は着いてのお楽しみ!) 10名

応募期間 2015年10月31日(土)(消印有効)まで

当選発表 賞品の発送をもって当選とさせていただきます。

皆様の
ご応募お待ち
してます

小笹小学校 子供たちの社会科見学

毎年恒例になってきましたが…小笹小学校の子供たちが総合的な学習という時間を利用して國松石材平尾店にやってきました！

学校から授業を通して、仕事とは、モノづくりとはを教えて下さいとのお願いに、こちらでもどうしたら楽しく学べるかと色々と考え、お墓を作る・建てる時の説明と使う道具・材料の紹介、また実際に石材を叩くといった作業を体験してもらいました。

子供たちに教えながら、伝える事の難しさで大変さ、そして学びの大切さを逆に教えてもらいました。

いつまでも学ぶ気持ちを忘れないようにしたいですね。



① 接着剤とコーキング材を触る子供たち。



② 石材を実際に叩く子供たち。皆やる気まんまんでした！

ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

◆ 國松石材株式会社

平尾店／福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189

工場／福岡市東区松田3-6-12
TEL 092-629-1189 FAX 092-629-2043

<http://www.kunimatu.com>

編集後記

秋も彼岸となれば喰いしん坊の私はお月見を想像します。

お酒も好きなのでたまには喧騒を離れて月見で一杯といきたいですね。



(國松祥治・田中俊晴)

松ぽっくり

- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「疑問・質問にお答えします」
- 3 第29回 町名散歩「吉塚」
- 4 お墓参りっていいね！
「お墓参り」の感動的なエピソード
第5回 小説「石を積むひと」
- 5 お客様からの声
- 6 お墓のなるほど講座
- 7 國松さん、今なんしようと？
國松石材スタッフ紹介
- 8 クイズに答えて素敵な商品をGET！

季節の小話 梨ナシ

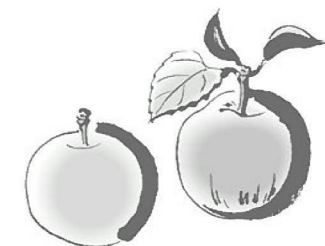
秋の果物の代表格「梨」。果物屋さんで梨が置かれるともうすぐ秋かなと季節を感じます。9月初旬から中旬が食べごろの「幸水」や「豊水」「二十世紀」などがあります。

梨は弥生時代にはすでに食べられていたといわれるほど歴史の古い果物だとご存じですか。

梨は水分と食物繊維が豊富な果物です。独特のシャキシャキした食感を生み出す細胞が体の腸を刺激し、お通じをスムーズにする効果があります。利尿作用により塩分を体外に出す働きもあるので、腎臓病や高血圧の方にもおすすめです。また、体を冷やす効果もあり、熱のあるときや夏バテの体にはとても良いといわれています。

さわやかな甘みのもととなる成分「ソルビトール」は虫歯菌の動きを妨げるので、おやつや夜食にも最適です。

今年の秋は旬のおいしさを見逃さないで、いろいろな梨の食べ比べを楽しんでみませんか。



先祖代々の墓
Q&A
お墓の相談室 疑問・質問コーナー

**お墓の
雑草対策特集**

気づいたら生えてくるお墓の雑草にはこんな対策はいかがですか？
なかなかお墓参りに行けない方の気が重いお墓掃除をサポートします。
そこで今回はお墓の雑草対策として、防草シートのご紹介をいたします。

- 1 前来た時に草を抜いたり除草剤をかけたとしても次のお参りの時は必ずと言っていいほど元のとおり。
- 2 そこで、まずは大きな草を抜いて下準備します。
- 3 次に小さな草や砂利、土を^{すきと}鋤取ります。



- 4 ^{すきと}鋤取ったら防草シートを敷き、隙間なく貼るのがコツです。
- 5 防草シートを敷いたら、新しい^ま砂利を^{なら}撒き均して完了です。



これで次のお参りから面倒な草むしりとはお別れです。
シートの寿命はメーカー保証で10年、太陽の光が当たらなければかなりの年数を持つそうです。

それでは全体のBefore・Afterをご覧ください。



作業前(Before)



防草シート敷き



作業完了(After)

お見積りは無料ですのでお気軽にお問い合わせください。

國松さん、
今なんしようと？

『松月院境内参道敷石工事』

福岡市東区馬出にある松月院(しょうげついん)。正式には「^{めいしょうざんしょうげついん}明照山松月院」という浄土宗のお寺です。

開山が昭和5年(西暦1930年)で、法心の開基によって開かれたということです。

松月院のある馬出(まいだし)は、古い時代の面影を未だ残しています。

馬出の地名は、豊臣秀吉の島津攻めの際、軍馬の調達を行った場所がこの名の由来だそうです。

山門を入り、本堂に突き当たり左に進むと境内墓地があります。以前は砂地の通路が、現在はきれいに敷石が貼られています。敷石の表面は滑りにくい加工を施していますので、雨が降って足元が悪い日でもお参りしやすくなっています。

参道敷石工事の総面積が455.7㎡という広い面積の工事になりましたが、施工後は歩きやすく見栄えもよくなったので、ご参拝の方々も喜んでいただいているようです。



松月院本堂



境内墓地内

浄土宗 明照山 松月院 福岡市東区馬出2-11-1 営業担当/森裕二 工事担当/宇津宮豊胤・柿原国一・古賀陽一

國松石材スタッフ紹介

お参りしやすくなるよう常に考えながら施工致しました。
ご参拝される方々が、より一層お寺に足をはこんで頂けたら幸いです。

- 生年月日 / 1974年7月11日生まれ
- 血液型 / O型
- 最近読んだ本 /
- 資格 / お墓ディレクター1級
全優石お墓相談員
終活カウンセラー

戦後70年ということで、様々な特集のテレビ番組や映画があります。
「昭和天皇実録」の公刊本が今年から2019年まで発売されるそうで、すごく興味を持っています。そこで、いきなり公刊本は難しそうなので、松月院のご住職の薦めで「昭和天皇実録の謎を解く」を読みました。昭和天皇の生涯がどの様なものだったのか、天皇としての苦勞が良くわかる本でした。
明治・大正・昭和と激動の時代に生きた昭和天皇の奥深さをもっと詳しく色々な角度から見て知りたくなり、公刊本は是非読みたいと思っています。



営業部 森 裕二

お墓のなるほど講座

今号よりお墓について皆様のお役にたてる内容を掲載しようと、『お墓のなるほど講座』を開設しました。

少しでも皆さんの“なるほど！”の声を聞くべく色々な疑問、質問を取り上げながらお墓のことに詳しくなっていただけると幸いです。

それでは第1回目の今回は「お墓参りについて」です。
なぜお墓にお水と線香、お花を手向けるのでしょうか？
いつも自然にしているお墓参り。その時に皆さんは何を持参しますか？
ホウキにチリトリ、バケツに雑巾…そして掃除が終われば花を生け、水鉢に水を溜め、線香を手向ける。



ごくごく自然で当たり前のようにやっているお墓参りにもなんと、ちゃんとした理由がありました！
それは時代を遡ること2400年ほど前、お釈迦さまが亡くなられたことに起因します。

「大般涅槃經」というお経にお釈迦さまは亡くなる前にこうおっしゃったと記されています。
「誰でも、そこ（お釈迦さまのお墓）に花輪や香料、顔料をささげて礼拝し、また心を清らかにして信ずる人々には、長い間利益と安樂とが得られるであろう。」と。

- つまり…
- 花輪 ⇒ お花を供える
- 香料 ⇒ お線香を焚く
- 顔料を塗って綺麗にする ⇒ お水をかけて清める、水を溜める

なるほど！そうですね。

仏教が日本に伝わって1500年あまり。知らず知らずのうちに伝播し、脈々と続いていく。
こうしたお墓参りの所作一つにしても、こんな歴史の重みがあるとは中々考え付かないですよね？
もちろん宗教の別はあるとは思いますが、お墓を参る気持ちがある限り、ご先祖様に思いを馳せ、子孫を想う気持ちがあればいつまでもいつまでも繁栄していくのではと思います。

お墓を通して皆さんのご家族の歴史がいつまでも繋がっていけるように願っております。



連続受賞！第21回全優石お墓デザインコンテスト

昨年の松ぼっくり秋号〔第27号〕のお客様の声で紹介いたしました城南区にお住いの松塚様が第21回全国優良石材店の会が主催する「想いを込めたお墓デザインコンテスト」の特別賞を受賞されました。

一昨年の第20回では早良区の山永様が特別賞を受賞しておられ、連続の受賞となりました。

コンテストの審査はデザインだけではなくお墓づくりへの想いにも重点が置かれています。

松塚様特別賞受賞おめでとうございます。私達にお墓づくりをたくして頂きありがとうございます。



吉塚地藏堂(太宰府市)

第29回 町名散歩 吉塚

吉塚

筑後星野の城主星野吉実（ほしのよしざね）は、その敵将である高橋紹運（たかはしじょううん）を四王寺山の岩屋城（太宰府市）で滅ぼしました。その後、若杉山の高鳥居城（篠栗町）の守護になりましたが、天正14年（1586年）亡き紹運の長男で豊臣勢の立花宗茂の攻撃により落城。吉実は自刃し、その首がこの地に埋葬され吉実塚（よしざねつか）としたことから、後にこの付近が「吉塚」と呼ばれ地名となったそうです。

今回はそんな「吉塚」を歩いてきました。

吉塚駅付近に「吉塚」の名前の由来になっている星野吉実を供養するための、吉塚地藏堂がありました。お堂は広くはありませんが、地元の方々のお参りも多い様子で地域を見守っている地藏堂という感じでした。

毎年7月下旬には地藏尊祭りがおこなわれているそうです。

その横には昭和の空気が漂っている吉塚商店街がありました。商店街のアーケード内には、狭い路地をはさんで生鮮食品・洋品・金物などの店舗がひしめきあう、日用品が揃う商店街です。

昔懐かしい面影を残し、近隣の人々に親しまれている商店街です。

皆様もお近くをとられた際には、吉塚地藏堂にお参りして、吉塚商店街へお買い物に訪れてみてください。



吉塚商店街入口



商店街風景

「お墓参り」の感動的なエピソード

お墓参りっていいね!

第5回 小説

「石を積むひと」



エドワード・ムーニー・Jr. 著 (小学館文庫刊) より 杉田七重 訳 改稿：発行 2014年9月10日

～あらすじ～

ツタに覆われた石塀が、少女の頃からずっとほしかった……。半世紀以上にわたって連れ添ってきたアンは、夫・ジョーゼフに、こんな宿題を残して世を去った。

娘や息子たちも、いまは、自分たちの生活を懸命に営んでいる。気がつけば、カリフォルニアはバイン・マウンテンの自宅で、孤独を噛みしめる己の姿に直面するジョーゼフだったが、ある日、若者の二人に暴行を受けてしまう。しかし、あえて罪に問うことはせず、代わりに彼らに自宅の石塀を積み上げる作業を手伝わせることにしたのだったが……。



「愛を積むひと」 (小学館文庫刊) 豊田美加 著 朝原雄三/福田卓郎 脚本 発行：2015年5月13日

今回の小説「石を積むひと」エドワード・ムーニー・Jr. 著 (小学館文庫刊) は、去る6月に公開されて話題になった映画『愛を積むひと』朝原雄三監督作の原作小説です。

これまで取り上げている「お墓参りの感動的なエピソード」ではありませんが、原作の小説や映画はとても感動的で、希望を与えてくれます。ぜひ皆さんへご紹介したくて取り上げました。

また弊社の生業でもあるお墓づくり、石を積むという「石」つながりで共感する部分もあります。ただ、もうすでに小説を読まれた、映画を観られた方は、思い感じるものは違うかもしれませんがその節はご了承ください。

～訳者あとがきより～

本作は、2002年にエドワード・ムーニー・ジュニアが発表した『The Pearls of the Stone Man (ストーンマンの真珠)』の全訳です。「ストーンマン」とあだ名された老人が、死んだ妻の願いをかなえるために、残された人生の時間をすべて使って、ひたすら石を積み、塀を完成させていくというお話です。(中略)

夫婦という関係は、人間が生きていくうえで、おそらくいちばん基本となる単位でしょう。ふつう、親よりも子よりも長い年月を夫婦はともに生きるのです。本書のジョーゼフ(夫)とアン(妻)は、そうやって、もう50年以上も、ともに暮らしている。半世紀以上です。その片方が先にこの世を去ったとき、残されたほうはいったいどうなるのでしょうか。また、先立つほうは、どんな思いで長年の伴侶をひとり残していくのでしょうか。もっとも耐えがたいこの世の別れ。それをこのふたりは、驚くべきことに、もっとも幸せな再会へと変えていきます。

夫婦愛というと、自分には関係ないと思われる方がいらっし

やるかもしれません。ならば人間愛と言葉を変えてもいいでしょう。相手は必ずしも配偶者にかぎりません。親でも子でも、異性でも同性でも、だれでもいい。想像も超えるほど長い年月のなか、苦しみや喜びをともに分かち合いながら生きてきた相手との間には、死をもってしても断ち切ることのできない深い絆が結ばれることはまちがいありません。

だからアン(妻)は、だまってひとり先に死んでいくことができませんでした。家じゅう至るところにジョーゼフ(夫)への手紙を遺していくのです。この世に肉体が亡くなったあとも夫を励まし、生きる気力を与え、希望に向かわせる。そんなアン(妻)の手紙から、愛する人がいるなら、人は死んでからも生きることができるのだと、訳者は胸が熱くなりました。(後略)以上があとがきの一部です。

～小説「石を積むひと」を読んで～

私は、主人公の老人ジョーゼフ(夫)が石塀づくりに励む行為は、石を積むということが、人がどう生きるかという人生の象徴であって、亡き妻アンを慕う姿でもあり、お墓づくりに通じていると思います。また原作にはもうひとつ別のテーマの若い世代と老世代の関わりが書かれてあり、考えさせられます。

この小説を先月、東京の上野公園のベンチでしばらく読んでいました。帰路の時間がきたので立ち上がり振り返ると、そのベンチは奇贈されたもので、思い出ベンチ「亡き妻、祐子との思い出に。」吉房優とプレートに彫られていました。

偶然ではありますが、この方が亡き奥様との思い出の地にベンチを奇贈されたことと、小説の内容が重なり胸に熱く込みあげるものがありました。

最愛の人のために「石塀をつくる」、「ベンチをつくる」、「お墓をつくる」ことはどれも同じで、大切な人と幸せの交換をしていると私は感じました。

担当者感懐



東京上野公園「思い出ベンチ」

お客様の声

國松石材とご縁をいただいたお客様の温かいメッセージをご紹介します

「希望どおりにデザインしていただく事が出来ました。たいへん満足しています。」

この度公園墓地 油山平成御廟に国松石材様の御助力によりお墓を造る事が出来ました。

父、母とも末っ子であったがゆえ、父は生前より自分の墓を造りたいと切望しておりました。

一時、墓造りの事が頭から離れていたのですが、いざ父が亡くなってふと思いかえた時、父の入れる墓がなく即座に国松石材様に相談させていただきました。

私共の希望であったお墓らしくないお墓。お墓のイメージをあまり感じさせない石碑のようなものにしたかったのですが、まさに希望どおりにデザインしていただく事が出来ました。たいへん満足しています。本当にありがとうございました。



城南区にお住いの山村様ご家族



インテリアコーディネーターの資格をお持ちの奥様がデザインされたお墓を、インド産黒御影石を使用し、石表面の仕上げ加工を変えることによってデザインを表現することができました。シンプルな中にも重厚さを感じる素敵なお墓です。

担当者から一言

山村様のお墓の文字には、富翁行楷書という書体を使用しました。行楷書というだけに、きっちりとした楷書体と一点一画をくずした行書体との2つの特徴を持ち合わせています。また太く力強い線の中に、少し丸みを帯びた優しい線質が感じられるのもこの書体ならではです。レイアウトは横長の石には珍しく、縦書きでシンプルに「山村家」ですが、黒系御影石が与える重厚感にも合う仕上がりになりました。両隣の空間は生花で彩られ素敵ですね。

微力ではありますが、山村様のお墓づくりに力添えできたことを嬉しく思います。



おだ あきこ 文字作成担当 小田 明子